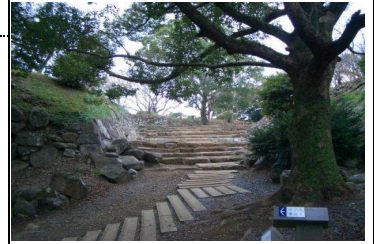


名護屋城跡並陣跡

分野 歴史

地域 鎮西・呼子

◎地図・写真・統計資料など



名護屋城跡並陣跡

(『佐賀県の文化財』より)

■名護屋城跡並陣跡（なごやしゅうあとならびにじんあと）

名護屋城跡は文禄・慶長の役（1592～1598）で朝鮮半島への侵略の根拠地となった城である。周囲には豊臣秀吉の号令一下、参集した全国諸大名の陣跡が2市町にまたがって広く分布している。

築城は、各大名への割普請で行い、天正19年（1591）に築き始め、わずか5ヶ月で一応の完成を見たといわれる。当時としては、大坂城に次ぐ大きさの本格的な城郭であり、総面積17ha余りに及ぶ。

また、陣跡は、徳川家康陣跡、石田三成陣跡など、現在120カ所あまりが確認されている。石垣、土塁、堀、建物跡、門跡などの遺構が良好に残っているものが多く、それぞれが中世山城を思わせる規模、構造をもつ。

このような景観は同時期に描かれた「肥前名護屋城図屏風」（県指定重要文化財）からもよく知られる。

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html